

③グループ：市民救援委員会に属する司法書士

カテゴリー	重要カテゴリー	重要アイテム	
自殺（未遂）者へのかかわり	妻を亡くした男性の突然の自殺	奥様が6年前に亡くなられて、その人と来年は7回忌だねということで話してたときなんです。その準備があったときに、突然亡くなられた。思い出して発作的だったのかなと思います。	
	年間何人かはかかわる	もしかしたら自殺されたのかなという方はもう数多くいらっしゃいますよね。そういうことは常に、日常とまでは言いませんけれども、年間何人かは必ず接触あります。	
	何かあると自分の命で責任をとる、解決するという風潮	東北というのは自死率が高いといいますが多くて、何かあると自分の命で責任をとるというか、解決するという風潮があった。そういうところから債務整理とかそういうのに入っているというのが、特別な活動をしなくても、気持ちの中ではそういう気持ちでやっているという感じ。	
	事前の発見は困難	事前に発見するって、なかなか難しい。	
	自殺したいと言われても具体的に助けることはできない	離婚したいというか、せざるを得ないと。そのときに、自殺したいということをしつくりと私に言われたんですね、しかし、今お話あったように、私自身が具体的に助けることはできない。	
	司法書士に何ができるのか	生活保護の制度が一応あるので、福祉事務所のほうへ一緒に行きまして、そこで生活保護の手続きできないかどうかということで話をさせてもらった。私らが助けてあげるわけじゃないんで。実際本当に何ができるんかない感じがしました。	
	遺族支援の必要性		自死の遺族の方との接点なんですけれども、自殺されてしばらくしたら取り立ての手紙がいっぱい来たとか、電話がかかってきたという相談も非常に最近多いですよね。やってみたら過払いがいっぱい出てきたりということもあります。
			債務整理に限らず、もちろん家族のだれかが自殺された遺族なんていうのは、必ずその血縁にいるし、子供に対する親の気持ちを考えると、子供がいじめられてたり、逆にいじめたりしてるときに、それがわかったとき、夫と娘とに挟まれたお母さんが、いたたまれなくなって、そういうふうな症状になることは結構、日常的にあること。
	受診後に相談につなげた事例	自殺念慮があるということで、まずは病院のほうを紹介して、その次に私のほうに借金の相談ということで来られた方なんですけども。最終的には、今はもう、ちょっと危ない状態ではあるんですけども、大分落ち着かれています。	
	身寄りのない自殺者の死後の財産管理	亡くなられた後の財産管理、たまたま私の場合は相続人がなくて、相続財産の管理人を専任して、残った財産をどうするかという財産的な、いわゆる司法書士の業務としてのかかわり。	
	専門機関の紹介	医療機関というか、専門にやるところはいっぱいあるんでしょうけれども、〇〇県だと、本当に県内に1カ所とか2カ所しかないもんですから、ちょっと離れたところで申しわけないけどということで紹介して、直接行ってもらうみたいな形。	
	半数が死を考えている	10年前に司法書士始めたんですけど、その当時というのはまだ過払いって有名じゃなくて、借金で本当に困った方が多くて。来ると、半分以上が死ぬしかないのかなぐらいの考えで。毎日取り立てに追われてますんで、気持ちがどんどん、気持ちというか、そうなっている方はかなり多かった。	
相談によって好転	多重債務の債務整理の相談なんかで、やばそうだなという相談に来てても、結局、私たちに相談に来ていただくと好転するのが大多数ですから、自死に直面したことは私はない。		

資料1

資料2

資料3-1

資料3-2

資料4-1

資料4-2

資料4-3

資料5-1

資料5-2

カテゴリー	重要カテゴリー	重要アイテム	
	孤独に陥らない支援の必要性	(自殺の) 原因らしきものは、孤独感にどうも入っていったような感じ。 やはり孤独にならないように、積極的に話しかけていけば、もっとよかったかなと思ってる。	
	自殺対策をめぐる現状	自殺の問題って非常に奥が深いというか、考え始めるとめどもなく日本の社会の不合理さとか、悲惨さというのが見えてくる問題。	
資料1	多重債務者の孤独	どこかの場面でだれかに相談ができて、要は相談に行くんじゃなしに、だれかが大丈夫なのというふうに声をかけてくれてということがない限りは、結局だれも助けられない。	
	ギャンブル依存、アルコール依存の相談	ギャンブル依存とか、アルコール依存の状態の相談の方もお見えになりますね。もちろん、そういう医療部門との連携もあるんで、そちらを紹介。	
	精神保健福祉士への認識	名前も知らなかった 名前のみ知っていた 他職種との混同 精神保健福祉士のつき合いはなかった 自殺願望のある人と精神保健福祉士をつなぐ発想はなかった	今までこういった資格、正直いうと名前も知りませんでした。 私も接点はありません。名前だけはかろうじて。 神経内科とかドクターは頭に残るんですけど、そこで精神保健福祉士さんっていうのにピンと来ないんですよ。多分、法律的なトラブルのとき弁護士さんというのは来てても司法書士さんというのは来ないっていうのと似てる。 精神保健福祉士さんという名前と仕事とのつき合いが、この資料をいただくまでお恥ずかしがらなかった。 自殺願望のある人を精神保健福祉士につなぐという発想はなかった。
資料3-1	精神保健福祉士とのかかわり	専門職が顔を合わせる勉強会 こころの健康サポートセンターの専門家の連携チームに精神保健福祉士も参加 成年後見の研修会講師が精神保健福祉士 成年後見、運営監視合議体、並びに苦情解決合議体でのかかわり 成年後見人としての活動での付き合い	ネットワークの勉強会、月1回ずつやってるかな、いろんなテーマを設けて。だけど、この自殺についてもたまにはあるけど。それから、いわゆる社会福祉士、精神保健福祉士。 こころの健康サポートセンターというのを2年前につくりまして、そこでいろいろな専門家が連携チームをつくって、相談が来たときにそれぞれが対応する。借金の問題が最も多く、精神保健福祉士ともつながりがある。 成年後見の研修会のときにソーシャルワーカーの方が講師になって、その方の話を伺ったりという機会はある。 成年後見の関係、運営監視合議体、並びに苦情解決合議体というもので施設を一緒にお邪魔したり。 精神保健福祉士に財産管理、補助、補佐をしてほしいという案件はたまにあります。在宅で悪質商法にあった場合に助け船が欲しいときがあります。 成年後見の活動で知的障害者の方、2人お世話させていただいてるんですけども、その知的障害者の施設で精神保健福祉士の方とはずっと接触があって。よくディスカッションもやります。
	精神保健福祉士への期待	かかわる機会をつくり、精神保健福祉士について知りたい	どういう職種の方なのかが知りたいですよ。要するに、あまりかかわる機会ないわけですから。各地域でもそういうふうな集まりを持っていただけるほうが良いとは思う。
	資料3-2		
	資料4-1		
	資料4-2		
	資料4-3		
資料5-1			
資料5-2			

カテゴリー	重要カテゴリー	重要アイテム
	精神保健福祉士の電話相談窓口の充実に期待	精神保健福祉士さんも、できれば、一番気軽なのは電話の相談だと思うんです。あそこに窓口があるから行きましょとって、行くのもなかなか大変なので、例えば、〇〇さんだったら、夜寝るころになると、ちょっと不安になってきたときに電話できるような窓口とか。私だったら、朝っぱら電話してもいいような、そういう電話の窓口がもっと充実すると、多少変わってくる。
	精神保健福祉士が寄り添って支援することへのニーズ	寄り添ってもらわないと、こっちこっちって言われたって困ってしまう。
司法書士のメンタルヘルス	懇意にしてた司法書士の自殺	懇意にしてた司法書士の自殺。自分のメンタルヘルスっていうの、ものすごく不安。
	仕事を休む司法書士の増加	今、仕事を休む司法書士すごく多いですよ。私の周りでも。
	精神疾患で仕事ができない司法書士	同じ支部の会員が入院を2年してたんです。やっと退院してきた、会費の減免の申請がありまして、支部長として意見書かなきゃならないんで、話しをしに行ってきたんですけど。手は震えるし、会話もちゃんとできないような感じで、どう考えても仕事はできない。
	孤独な仕事	みんな抱えてると思うんですよ。結局、一国一城だから。
		孤独なわけです、だれにも言えないんですよ、自分の抱えてる問題を。気軽に話ができればいいんですけど。
		職業から来てる部分が少しあるかなと思うのに、司法書士は法律を扱いますよね、秘密保持がありますよね、それから、司法書士同士、ある意味常にライバル。
	精神的な不調に悩まされる	私の周りの司法書士さんでも、「おまえどこに行っているんだ」「私はここに行っている」「あそこもいいけど、私はこっちのほうがいいと思ってこっちに行った」という話もいっぱいあって。精神内科や神経内科などに行ってる人はよく聞くとし。私はそれが当たり前だと思ってる。
		朝起きて布団の中でいろいろ考えるときに、一番精神状態がまずいなと思って。仕事を始めると、事務所行ってやると、結構忙しいから気が紛れるもんだから忘れちゃうんだけど、朝目覚めて、布団の中で、この仕事どうしようかと考えてると、だんだん頭の中が混乱してくる。
		不器用ですし、ある意味まじめ。
		夜寝る前じゃないですかね。私は、夜寝る前です。
まじめで、几帳面で責任感が強くて、そして、失礼ですけど世渡りについてはちょっと不器用、だから、仕事も責任も抱え込んでしまって、にっちもさっちもいなくなってしまうという方でした。		
1人で考え込む時間が一番あれですね。		
睡眠の確保	夜すぐ眠れるようにすればいいんですよ。だから、お酒を飲むとか、あまりよくないですけどね、運動して疲れるとか、あるいは睡眠時間が少なくなって、夜すぐ寝てしまうとか。	
メンタルヘルスに関する専門的知識の必要性	ロジカルな考え方をするための知識みたいなことに偏重してしまう、若い司法書士さんは特にそういう人が多いので、そういう部分は、この司法書士のメンタルヘルスっていうところから含めても、もう少し奥深くまで、そういうところの知識を持ったほうがいい。	

カテゴリー	重要カテゴリー	重要アイテム
	楽しんで忘れる	お酒を飲んだり、一緒に温泉入ったりとかしたんですけど、要するに忘れられる。
	ネットワークの活用によるストレスの軽減	このグループは、意外と気楽に話し、ライバル意識がないから。 ロータリークラブとかでも、皆さん経営者として1人1人でやってるから、そういうところでいろいろな話ができたりという部分を、できるだけ活用したい。
調査において知りたいこと	司法書士が相談を受けるためのスキル獲得	司法書士さんがいろいろな人生の、非常に最悪な時期の相談を受けるが、スキルがあるのかどうか。ないと、二次的被害を生むことになる。
今後の連携	顔の見える関係の構築	どういう形で連携をとれるかというところは、あまりイメージがわからないんですけど、そういうふうな問題について一緒に取り組んでいける人がいるということは、逆に心強い。
		精神保健福祉士さんのほうへ相談に行ってもらいたいと思ったときに、どこに連絡をしない、してくださいと言ったらいいのかわからない。
		連携連携って言っても、日本司法書士会連合会と日本精神保健福祉士協会の上のほうで連携してもあまり意味がないと思うんですよ。現場で連携して顔がわからないと。
	気軽に訪れることができる相談窓口の必要性	どこかに相談すれば何とかなるのに、どこにも行かないというのが、まず一番のネックですよ。そういう人たちを掘り起こすのは非常に難しい部分があるわけですよ。だから、本当に、もっと気軽に相談できるような窓口をぜひつくってほしい。
		住んでる地域の窓口を紹介しないと、これはうまくいかない。
	専門的な知識へのニーズ	この方は将来的なリスクがどこまであるのか。では、その場合にどのように対応するのかという順番に流れてくると。結局、私たちは、その後の対応のことしかわからないから、その前のことが知りたい。
		対応する前にまずチェック。この人はどうなのかっていう。例えば、100点満点のうちの何点かなという。
		例えば、司法書士が多重債務で何となくこの方精神的な苦痛があるのかなというときに、いわゆる福祉士さんとネットワークがあればと思う。
		司法書士は、法律を扱ってはいるんですけども、聞く力というか、理解する力というのを、もっともっと深めないといけないんじゃないか。〇〇さんが言われたんですかね、そういうトレーニングか勉強を、もっともっとしないといけない。
		もっと身近に行けるようなところをつくるのが実際難しいんでしょうけども、何か本当にネットワークじゃないですけど、情報を発信してほしい。
司法書士のメンタルヘルスへの理解	連携とかネットワークをつくる前に、まず、司法書士のメンタルヘルスを知っていただくと、お互いの職種もよくわかる。	
各県の単位会、支部とのつながり	地域格差があるから、各県の単位会、もしくはその下の支部がありますけど、支部とのつながりだと思ふ。	
地域におけるネットワークづくりの必要性	そういうつながりというのは司法書士自身がやらなきゃいけないことだし。自死とは限らなくて、成年後見からのつながり。そこから自殺予防のつながりが出てくるんじゃないのかなという気はするんです。だから、自殺予防についてなんて、なかなか単刀直入ではなくて、成年後見のほうからという回り道もある。	

カテゴリー	重要カテゴリー	重要アイテム
		地域地域で顔が見える人同士のネットワークづくりをやっていくことが大事だなと。特に司法書士と、今お話しいただいたとおり、精神保健福祉士さんとの間のネットワークを地域地域で地道につくっていく。
	予防支援の必要性と教育の必要性	どうしても事後しかわからないんです。事前に何とかそういうわかる方法ないのかなってということなんですけど、それが一番自殺予防にもなるだろうと思うし、私どもがそういう人を、市民を助けられる1つの方法。
		精神保健福祉士さんと今から協調・連帯をしていくときに、今、〇〇さんが言われたようなことをみんなが知りたいと思ってるんだったら、言ってもらえれば、ちょっと役に立つかもしれない。
		早期発見っていうのかな。そういうのをやっぱり、精神保健福祉士さんの司法書士への教育。
被災地での支援における連携	被災地へ行って、例えばそういう災害に遭った人、自殺とはちょっと違いますけれども、いわゆる精神的に不安定な方がいて、その中には自殺してしまう方も中にはいると思うんですけど、そういうときに私どもだけではなくて、いわゆる精神保健福祉士さんと一緒にそういうところへ相談に行ってもらおうということ、これも1つのネットワークじゃないかな。	

資料1

資料2

資料3-1

資料3-2

資料4-1

資料4-2

資料4-3

資料5-1

資料5-2